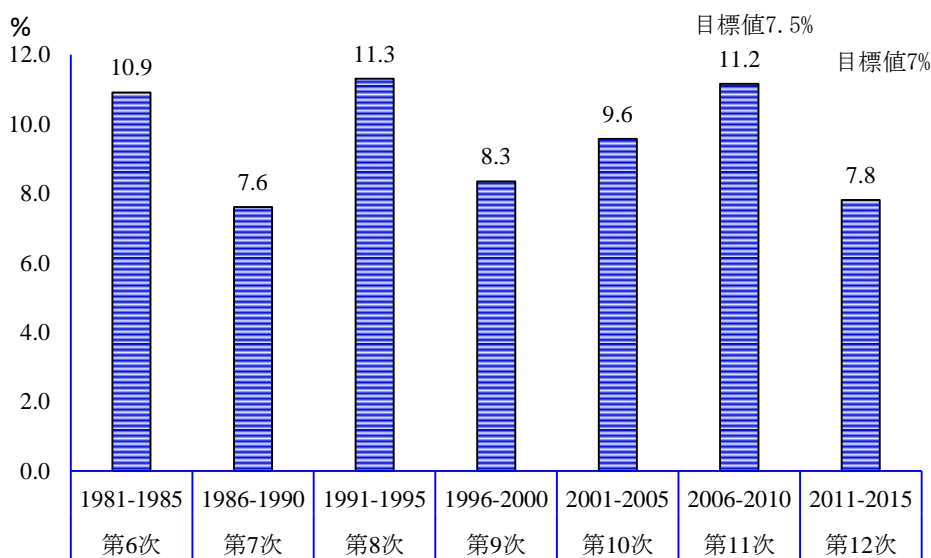


2015年の中国経済と第13次5ヵ年計画の展望および課題

【GDPと産業構造】

中国国家統計局の統計速報¹によると、2015年の中国の国内総生産（GDP）は67.7兆元であり、2015年の人民元対日本円の年平均為替レート1元＝19.4円をもとに計算すると、2015年の中国のGDPは日本円で1,313兆円になり、2015年の日本のGDP（名目）499.8兆円の2.6倍になった²。但し、2015年の中国のGDP成長率は6.9%であったが、1990年以降の最低レベルとなった。一方、2015年の中国の総人口は13億7,462万人であり、1人当たりGDPは4万9,351元（95.7万円）になる。

国家統計局は2015年の経済について、中国政府は複雑な国際情勢に直面しつつ、国内の改革、発展と安定を実現し、第12次5ヵ年計画（2011～2015）の目標を無事達成したことを自賛している。2015年の実質GDP（2010年の価格を基準とする）は59.6兆元であり、2010年の40.8兆元より18.7兆元増加した。第12次5ヵ年計画期の年平均成長率は7.8%になり、目標値の7%を0.8ポイント上回った。



（出所）中国統計出版社「中国統計年鑑」、国家統計局「2015年の国民経済と社会発展統計公報」

図1 中国の各5ヵ年計画期における年平均成長率の推移

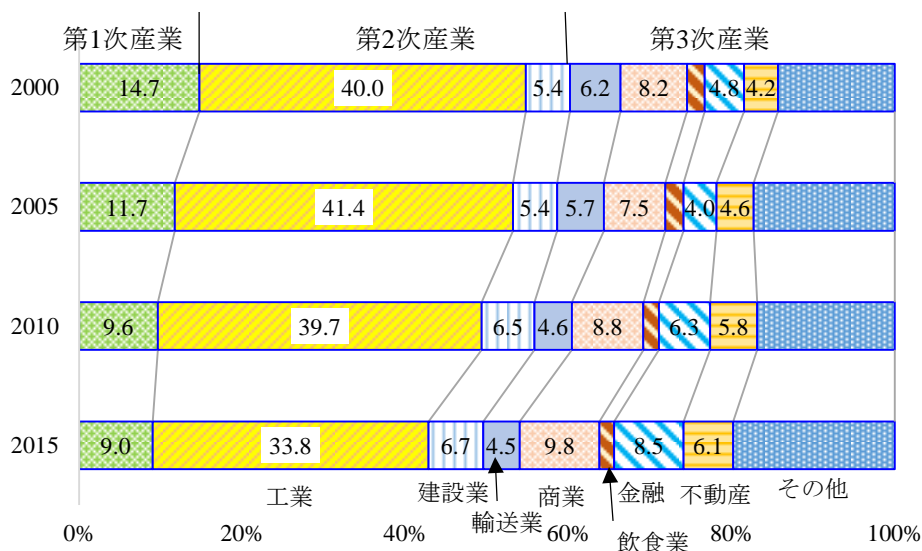
2015年の産業構成を見ると、GDPに占める第一次産業の比率は9.0%、第二次産

¹ 国家統計局「2015年の国民経済と社会発展統計公報」

² 総務省統計速報

業は 40.5%、第三次産業は 50.5%であり、2010 年の産業構成と比べると、第一次産業が 0.6 ポイント、第二次産業が 5.6 ポイント下がった一方で、第三次産業（サービス業）が 6.3 ポイント上昇した。中国の産業構造は徐々に第三次産業へシフトしているものの、日本の第三次産業の 70%以上の比率に比べると、20 ポイント低い。今後の中国経済は第三次産業を中心に成長すると予想される。

また、2015 年の第三次産業の中で、GDP に占める商業のシェアは 9.8%になり、2010 年の 8.8%より 1 ポイント上昇し、金融業のシェアは 8.5%で、2010 年の 6.3%より 2.2 ポイント上昇した。不動産のシェアは 6.1%で、2010 年の 5.8%より 0.3 ポイント上昇した。金融業は他の業種より拡大の速度が高いことが窺える。



（出所）中国統計出版社「中国統計年鑑」、国家統計局「2015年の国民経済と社会発展統計公報」

図 2 中国の名目 GDP の産業構成の変化

【工業生産】

2015年の工業生産状況を見ると、石油精製量は5億2,119万トン(1,042.4万B/D)になり、2015年末までの中国の石油精製能力を7.1億トン/年³として試算すると、稼働率は73.4%であり、国際平均水準の84%より低く、精製能力は過剰状態にある。

2015年の銑鉄生産量は6億9,141万トンで、2014年の7億1,375万トンより3.1%減少した。粗鋼生産量は8億383万トン、2014年の8億2,231万トンより1,848万

³ 中国石油经济技术研究院「2015年国内外油ガス産業発展報告」

トン減になった。なお、2015年末時点の中国の粗鋼生産能力は12億トン/年以上⁴であり、生産設備の稼働率が67%以下で、生産能力の過剰が深刻化している。

2015年のセメント生産量は23億4,796万トンで、2014年の24億9,207万トンより1億4,411万トン減となった。一方、2015年末時点のセメント生産能力は34.2億トン/年⁵、セメント生産設備の稼働率は68.7%であり、鉄鋼産業と同じく生産能力は深刻な過剰を来している。

2015年には板硝子の生産量は前年比6.8%減になり、コークスは6.7%、乗用車は6.6%、冷蔵庫は9.1%減少した。工業生産を全体的に見ると、中国経済の減速、輸出と国内需要の低迷などを受けて、製造業全体の収益が悪くなっている。

中国統計局の「2015年国民経済と社会発展公報」によると、2015年の工業企業の総利益は2014年に比べ2.3%減少し、特に国有企業の利益は2014年より21.9%もの減少となった。外資と香港・マカオ・台湾投資企業の利益は1.5%減となった。

表1 原油処理量と工業製品生産量

年	原油処理	銑鉄	粗鋼	セメント	乗用車
	万トン	万トン	万トン	万トン	万台
2000	20,305	13,101	12,850	59,700	60.7
2005	29,041	34,375	35,324	106,885	277.0
2010	41,869	59,733	63,723	188,191	957.6
2011	44,600	64,051	68,528	209,926	1,012.7
2012	46,791	66,354	72,388	220,984	1,077.1
2013	47,858	71,150	81,314	241,924	1,210.4
2014	50,277	71,375	82,231	249,207	1,253.1
2015	52,199	69,141	80,383	234,796	1,170.0
期間	年平均増減率 (%)				
2010-2000	7.5	16.4	17.4	12.2	31.8
2015-2010	4.5	3.0	4.8	4.5	4.1
2015-2014	3.8	-3.1	-2.2	-5.8	-6.6

(出所) 中国統計出版社「中国統計年鑑」、国家統計局「2015年の国民経済と社会発展統計公報」

【貿易】

中国税関統計によると、2015年の中国の貿易総額は3.9兆ドルであり、2014年の4.3兆ドルに比べ9.8%減少した。2015年の輸出額は2.3兆ドル、2014年より2.7%

⁴ 人民網 <http://energy.people.com.cn/n1/2016/0205/c71661-28113568.html>

⁵ 中国産業経済網 <http://www.cinic.org.cn/site951/cjyj/2016-03-08/814180.shtml>

減少し、輸入額は1.6兆ドルで18.4%もの減少になった。

【中国経済の問題】

現在の中国経済の問題については、2016年3月に発表された「国民経済と社会発展の第13次5ヵ年計画綱要」の中で、経済の成長パターンが粗放、アンバランスであり、持続不可能であることが依然深刻な問題であると指摘されている。また、財政収支のギャップや金融リスクの増大、一部産業の生産能力過剰、不動産の膨大な在庫、企業債務の上昇、依然大きい都市と農村部の収入格差、生態環境の悪化など問題は山積している。

【第13次5ヵ年計画の目標値】

今後5年間（2016～2020年）の中国経済については、第13次5ヵ年計画は年平均経済成長率を6.5%以上として2020年の1人当たりGDPを2010年の2倍とし、また、国民の1人当たり可処分所得の年平均増加率をGDPと同じく6.5%以上とする目標値を設定している。また、GDPに占める第三次産業の比率を2015年の50.5%から、2020年には5.5ポイント引き上げて56%にするとしている。2015年の実績をもとに計算すると、これらの目標が達成された場合、2020年には中国の実質GDP（2010年価格）は81.6兆元になり、2015年の為替レートで計算すると1,583兆円になる。

【新思想の理念と経済成長方式】

こうした経済成長の目標を実現するため、第13次5ヵ年計画は「創造・調和・グリーン・開放・共有」の「新発展」理念を打ち出している。「新思想」の理念の具体的な内容をまとめると以下のようになる

- ① 創造：創造は今後の経済発展の核心であり、理論の創造、制度の創造、科学技術の創造などを包摂する。創造が今後の経済成長を牽引することになる。
- ② 調和：都市部と農村部の調和の取れた発展、新型の工業化、情報化、都市化、農業の現代化の発展を並行して進める。
- ③ グリーン：省資源と環境保護を基本国策として、持続可能な発展を堅持する。
- ④ 開放：ウイン・ウインの開放戦略を実施し、内需と輸出の調和、輸出入のバランス、外資と技術の導入を進め、開放型経済を発展させる。
- ⑤ 共有：経済発展の成果を国民が共有できるようにする。

第13次5ヵ年計画期の経済成長については、従来の消費・投資や輸出の発展に加

2016年4月1日

えて、技術・技術能力・創造性を盛り込み、新しい成長パターンの形成を目指すことになる。具体的には需要を適度に拡大する同時に、供給側の改革を推進し、過剰生産能力、過剰在庫の削減やコストの引き下げなどを通して、産業構造の調整を進め、供給側の品質と効率を高める。

第13次5ヵ年計画が打ち出している「新思想」は、江沢民の「三つの代表」、胡锦涛の「調和発展」と同様に、習近平の理念を総括し、習近平政権の特徴が反映されていると言える。

(エイジウム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>